

## 看護臨地実習準備教材の設計と試行： 仮想の臨地実習場面によるスキルの習得

Design and Tryout of Learning Materials for Preparing Nursing Clinical Practicum :  
: Using Virtual Situations to Learn Skills

三宮 有里<sup>\*1\*2</sup>, 中野 裕司<sup>\*2</sup>, 鈴木 克明<sup>\*2</sup>, 平岡 斎士<sup>\*2</sup>

Yuri SANNO MIYA<sup>\*1\*2</sup>, Hiroshi NAKANO<sup>\*1</sup>, Katsuaki SUZUKI<sup>\*1</sup>, Naoshi HIRAOKA<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>順天堂大学 医療看護学部

<sup>\*1</sup>Juntendo University Faculty of Health Care and Nursing

<sup>\*2</sup>熊本大学大学院 社会文化科学研究科 教授システム学専攻

<sup>\*2</sup>Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞ 看護基礎教育における臨地実習では、学内で学習してきた知識や技術を活用できていない学生の様子が日常的によく報告されている。この教育的課題を解決する手立てとして本研究では、対象とした臨地実習における学生の学習行動ならびに、看護師の日常的なパフォーマンス行動を踏まえ、臨地実習までに学習した基本的な知識やスキルを想起しながら学習できる e ラーニングの独学教材を設計した。形成的評価を実施することを通じて、教材改善の方向性を考察した。

＜キーワード＞ 看護学生、臨地実習、準備学習、インストラクショナルデザイン、e ラーニング

### 1. 問題と目的

看護基礎教育における臨地実習は、看護職の育成段階において重要な位置づけを担っており、効果や意義がある一方で、「学内で学習してきたにも関わらず、実習でその知識や技術を上手く活用できていない」という現象が日常的に報告されている（香川・櫻井 2007）。また臨地実習は、学生にとって、精神的緊張が高いことから、学内学習に比べ困難さが生じやすいことが指摘されている（隅田ら 2013）。このような現状を踏まえると、効果的かつ効率的な臨地実習の充実や改善は喫緊の課題であり、臨地実習前に臨地実習に向けた学習レディネスを高めておくことが重要である。

先行研究を概観すると、臨地実習に向けた学習レディネスの向上の観点から、実習前の準備学習などの取り組みに関する研究がなされており、中でもシミュレーション教育に関する報告が多い。シミュレーション教育は、さまざまな利点が報告されている一方で、実際の臨床状況のような再現性・忠実性が高い教材を作成したり、臨場感のある環境を設計したりすることは複雑であり、1 学年の定員数が多い看護系大学で全学生に対しシミュレーション教育を実施するには、時間も費用もかさむという問題がある。実習前に実施されているシミュレーション教育に関する先行研究では、一つの場面のみを実施したり、学生の人数を限定して実施したりしていたものが報告されていた（大村ら 2014, 相野・森山 2011 など）。このような背景から、必要最小限のコストで、臨地実習前にすべての学生が学習できる教材を設

計・開発することが必要であると考えた。

そこで本研究は、ID の理論・モデルを活用し、臨地実習での学習と同じような課題現出・解決プロセスの中で学習できるよう、写真や動画を用いて仮想的な臨地実習場面を提供することで、既習内容を活かして、実習前に身につけておくべき知識やスキルを習得することができる実習前準備学習を提案すること、教材使用時の学生の学びの様相や、使用後の臨地実習における学生の行動から教材の改善案を考察することを目的とした。

### 2. 臨地実習準備学習のデザイン

#### 2.1 これまでの実習前学習の問題点

ターゲットとした臨地実習は、看護学生が初めて一人の患者を受け持ち、看護展開をする必修科目（2 年次前期開講科目）である。これまで、実習前までに 2 年前までの学習内容を復習しておくように伝達し、事前学習の内容や方法は各自に任せていた。他方、本臨地実習で良く活用する知識やスキルのほとんどが、1 年次に学習しており、これらの科目的履修後から実習まで時間が経過している。これらのことから、一人の患者を受け持ち、臨地で看護を実践することが初めての学生が、臨地実習前にこれまでの科目を想起しながら、患者を受け持ち、看護を展開することをイメージできる教材を設計することが必要だと考えた。また、2 年次前期のカリキュラムは多くの必修・選択科目があるため、独学で学習できる教材を設計することが必要であると考えた。

## 2.2 教材の設計

臨地実習準備学習の課題は、これまでの本臨地実習における学生の行動を踏まえ、池上(2016)のゴール達成型学習デザインにある看護師の日常的なパフォーマンス行動を参考に、3つの内容、①電子カルテから必要な情報を入手すること(情報入手)、②患者を観察し必要な情報を入手、把握すること(患者観察)、③観察・測定技術を用いて得られた結果から患者の状態を解釈し、考えてきたケアプランを実行できるかどうか検討すること(状態解釈)に絞った。

次に、鈴木(2002)に基づいて、これら3つの学習内容に関する学習目標を立てて、課題分析図を作成し、それらをもとに教材を作成した。教材の作成にあたっては、メリルのID第1原理(鈴木2011)に基づいてスキル習得のために練習の機会を多く提供すること、臨地実習での学習と同じような課題現出・解決プロセスをイメージしやすいように多くの動画を取り入れる設計とした。本教材において、臨地実習での学習と同じような課題が現出したり、解決したりする場面とは、学生本人が患者に接したり、臨床指導者と関わったり、自分で電子カルテから情報収集をしたりする場面とした。なお、本教材は独学を想定しているため、LMS(Learning Management System)のMoodle上に設計した。

## 2.3 教材内容と方法

教材は以下のように構成した。

### (1) コース概要・学習の進め方の説明

3つの学習内容に関連した「看護アセスメント」について、今から学習する内容と既習の学習内容の関連を説明した。

### (2) 開始前のクイズ(事前テスト)

事後テストと同レベルの問題を出題した。事前テストに合格できた場合は本教材での学習をしなくともよいことを説明した。

### (3) 3つの内容に関する学習

①「情報入手」は「患者の全体像を把握するために収集すべきデータは何か」「そのデータはどこに掲載されているか」を見本の電子カルテ画面をもとに説明し、確認クイズを設けた。

②「患者観察」は、学生目線の動画を用いて、学習前の学生の行動(病室に行ったが、患者の状態や患者空間を捉えられない)を示し、学習の必要性を説明した。その後、開始前クイズで出題した問題を解説しながら、患者と関わる中でどうデータを収集し、どう情報として把握するのかを学習できるクイズを設けと共に、静止画や動画を見

て得られたデータ、情報を収集・整理した結果をフォーラムに書き込むタスクを設けた。

③「状態解釈」は、観察・測定技術の活用場面、結果の判断方法、結果から考える取るべき行動について説明し、確認クイズを設けた。

### (4) 終了前のクイズ(事後テスト)

到達レベルを確認するテスト問題を出題した。

## 3. 教材の試用における学生の様子

9名の学生に教材を使用してもらい、内7名がすべての確認クイズやタスクを実施し、本教材の事後テストまで終了した。事前テストの平均4.5点(10点満点)に対し、事後テストは7.7点(10点満点)であった。教材での学習後の実際の臨地実習では、7名の学生は①「情報入手」と②「患者観察」の内容については教材と異なる状況であつても早期の段階から実施できていたが、③「状態解釈」の内容については、患者の疾患、病状を理解した上で判断する必要があり、ほとんどの学生が、実際の患者の複雑な病状を理解して、問題解決策を選択することが困難であった。

## 4. 考察と今後の課題

結果から、①「情報入手」と②「患者観察」については効果があったが、③「状態解釈」については、学習目標、教材内容を再検討し、転移や般化を促進できるよう臨地に近いさまざまな課題を提示することが必要であると考えられる。さらに、臨地実習前に臨地実習の準備として身につけておくべきスキルを習得することができる教材にするために、今後はスキルの発達を促進する方法と原理(ロミゾウスキー2016)に基づいて、指導方略を再確認して、教材の改善を試みる。

## 参考文献

- 香川秀太、櫻井利江(2007) 学内から臨地実習へのプロセスにおける看護学生の学習の変化:状況論における「移動」概念の視点から.日本看護研究学会雑誌,30(5): 39-51
- 隅田千絵、細田泰子、星和美(2013) 看護系大学生の臨地実習におけるレジリエンスの構成要素.日本看護研究学会雑誌,36(2): 59-67
- 大村政生、山田知子、石井真ら(2014) 学生を主体とした小児看護学臨地実習前のシミュレーション教育効果の検討.中部大学教育研究,14: 1-8
- 相野さとこ、森山美知子(2011) 終末期看護場面におけるシミュレーション学習法を用いた実習前の学生のレディネス向上と臨床判断の育成に関する効果の検討の試み.日本看護学教育学会誌,21(2): 45-55
- 池上敬一(2016)【医療シミュレーションと教育工学】中山実、鈴木克明(編著)職業人教育と教育工学、ミネルヴァ書房: 63-87
- 鈴木克明(2002) 教材設計マニュアル—独学を支援するため—.北大路書房.
- 鈴木克明、根本淳子(2011) 教育設計についての三つの第一原理の誕生をめぐって.教育システム情報学会誌,28(2): 168-176
- ロミゾウスキー(2016)【スキルの発達を促進する】ライグルース、カーソン・ラム(編著)インストラクションナルデザインの理論とモデル 共通知識基盤の構築に向けて,北大路書房: 214-243